

第54回造本装幀コンクール 受賞者インタビュー

日本図書館協会賞：『楽しい雪の結晶観察図鑑』

装幀家

尾田直美 氏



©佐藤祐介

●今回の作品のような造本にされたのは、どういった経緯があったのでしょうか。

「美しい雪の結晶が290点も掲載された図鑑」ということで、カバーも画像の美しさが際立つ、シンプルなデザインにすることにしました。さらに「カバーだけでもいつまでも見ていられる」「本棚に収納せず飾っておきたい」と思ってもらえるようなイメージも目指しました。

一般的にイメージされる形以外に、初めて見るような珍しい形も多数掲載されているため、華やかな形だけでなく少し地味な形のものも織り交ぜてレイアウトし、また、色々な形を整然と並べることで、カバーを手にとった方々に「雪の結晶ってこんなに色々あるんだ！そして美しい!!」と感じてもらえるよう気をつかいました。

タイトル周りや帯は、繊細で美しい雪の結晶の世界観に合うようにデザインしています。

●応募したきっかけや、受賞の知らせの感想、周囲の反応など、いかがでしたでしょうか。

編集担当者様とやりとりを重ね、微調整を繰り返して、完成に至った思い入れの強い作品なので、受賞のお知らせを伺ったときは大変嬉しく思いました。

この作品に携わることで、雪の結晶にこれほど多彩なバリエーションがあることを知りました。肉眼で見ることのできないミクロの芸術を1点1点コツコツ丁寧に撮り溜め続けた著者様の労力には頭が下がる思いです。「大切な宝物コレクション」のようなイメージに仕上げることができたのではないかと考えています。

「日本図書館協会賞」ということで、全国の図

書館で多くの方々に雪の結晶の魅力を感じていただけたらと思います。

このような機会を与えていただき、緑書房編集部様、関係者の皆様に改めて感謝いたします。修正作業も楽しく完成が待ち遠しい作品でした。

●作品制作において、こだわった点、苦労した点、そのほか制作についてのエピソードがあれば教えてください。

「雪の結晶の写真が主役のシンプルデザイン」という方向性は最初から決まっていましたが、写真の見せ方がなかなか固まりませんでした。

写真が美しいので「雪の結晶1点を大きく入れる案」も捨てがたく、「1点の案」、「複数の案」それぞれにバリエーションを作成し、編集担当者様と相談しながら詰めていきました。

雪の結晶の写真が主役の場合、候補写真を確定させるまでが長い道のりになります。今回は複数案になりましたが、色々な形（分類）からバランスよく選ぶのが大変でした。どれも美しく、贅沢な悩みになりました。

また、背景の色味が写真により若干異なっていました。統一せずにそのまま使用しました。濃紺と青の2色の組み合わせで紙面が単調にならずポイントになったかと思います。(了)